

# 機関リポジトリを活用した 紀要の公開

東京大学数理科学研究科Journal of  
Mathematical Sciences, The  
University of Tokyoを事例として

東京大学情報基盤センター 小山憲司



## 目次

- UT Repositoryについて
- UT Repositoryのサービス
- 数理科学研究科英文紀要公開に向けてのロードマップ
- 検討中あるいは今後の課題



## UT Repositoryについて:概要



- 2006年4月公開予定の東京大学学術機関リポジトリ
- MITおよびHPラボが開発したDSpace1.3.2を基にしたDSpace日本語版(日本HP、ソラン株式会社)を利用
- 学内の研究成果を保存・管理し、それらを学内外に公開・発信することを目的として設置

## UT Repositoryについて:概要



- 学術雑誌掲載論文
  - 総長、副学長、図書館長、基盤セ長など
- 学位論文
  - 工学系研究科、新領域創成科学研究科
- 大学紀要
  - 数理科学研究科、教育学研究科、東洋文化研究所
- 図書および図書の一部
- 研究調査報告書(科研費報告書、COE報告書)
- 学会発表資料
- レポート類(テクニカル・レポートなど)
- プレプリント
- 教育資料(教材、講義収録ビデオ)ほか

## UT Repositoryについて:設置の経緯



- リポジトリの設置
  - 2004年度NII-IRPに参加、EPrintsを利用した機関リポジトリの設置(試験運用)
  - 2005年度NII-CSIに参加、DSpaceを利用した機関リポジトリへ移行
- 学内合意形成
  - 附属図書館が2005年度に策定した「東京大学における情報戦略について」の中で触れられている、研究成果の社会への還元を実現するための手段の一つとして、学術機関リポジトリの構築を盛り込む。
  - 機関リポジトリの設置については、役員会、情報システム委員会、図書行政商議会の承認を得ている。

2006/03/28

2006年度日本数学会出版委員会ワークショップ

5

## UT Repositoryのサービス

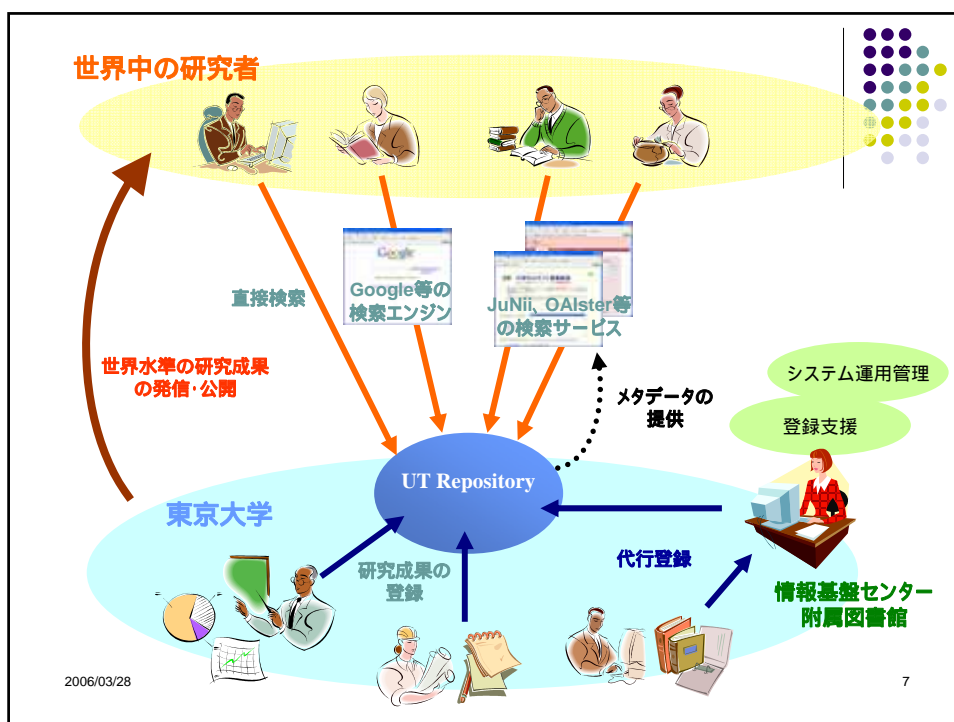


- 研究成果の保存・管理
- 研究成果の代行登録
- 研究成果の発信
  - OAI-PMHを活用し、JuNii(国立情報学研究所)、OAIster(ミシガン大学)、Scirus(Elsevier)、Google Scholar(Google)などへのメタデータの提供を予定

2006/03/28

2006年度日本数学会出版委員会ワークショップ

6



## 数理科学研究科英文紀要公開に向けてのロードマップ

- Phase1: UT Repositoryへの登録
- Phase2: 数理科学研究科とUT Repositoryとの連携
- Phase3: 日本数学会との連携
- Phase4: MathSciNetとの連携

## Phase1 : UT Repositoryへの登録



- 現在、数理科学研究科Webサイトで公開中のJ. Math. Sci., Univ. TokyoのVol.1(1994)からVol.10(2003)の登録・公開
- Vol.11(2004)以降も順次登録

2006/03/28

2006年度日本数学会出版委員会ワークショップ

9

## Phase1 : UT Repositoryへの登録



- この時点では、数理科学研究科、UT Repositoryで論文を保存・公開。
- メタデータの要素とデータ構造について、詳細を検討する。

2006/03/28

10

## Phase2: 数理科学研究科とUT Repositoryとの連携



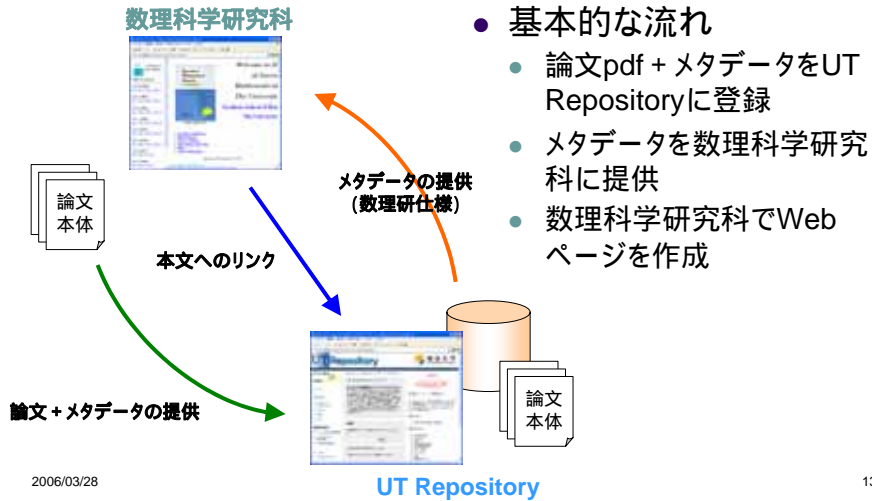
- 出版済みの紀要について
  - UT Repositoryに登録された紀要のメタデータを抽出し、数理科学研究科に提供。
  - そのメタデータをもとに、数理科学研究科でWebページを作成し、研究成果として公開する。
  - 論文本体はUT Repositoryで保存・管理し、数理科学研究科からはリンクによって論文を閲覧する。

## Phase2: 数理科学研究科とUT Repositoryとの連携

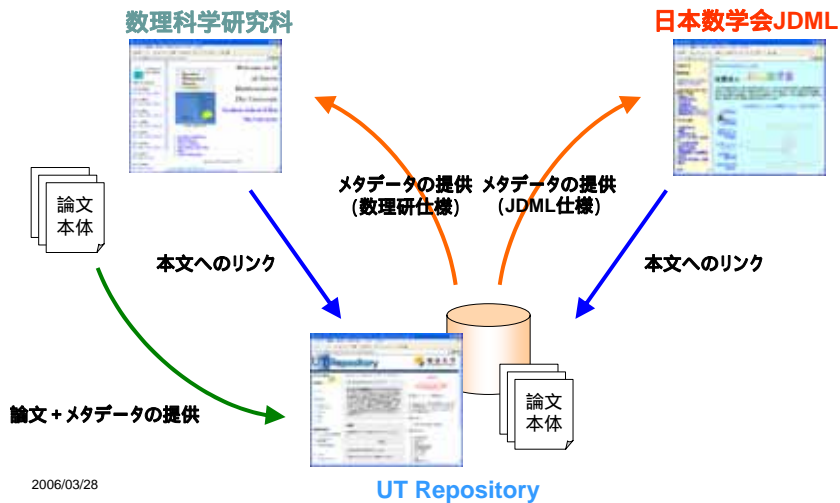


- 今後出版される紀要について
  - 紀要出版時に、作成された電子データ(メタデータと本文pdf)をUT Repositoryに登録する。
    - メタデータの公開: 出版時
    - 本文の公開: 1年後(出版社との契約による)
  - 同時に、新たにUT Repositoryに登録された論文のメタデータを数理科学研究科に提供し、Webページのデータとして活用。

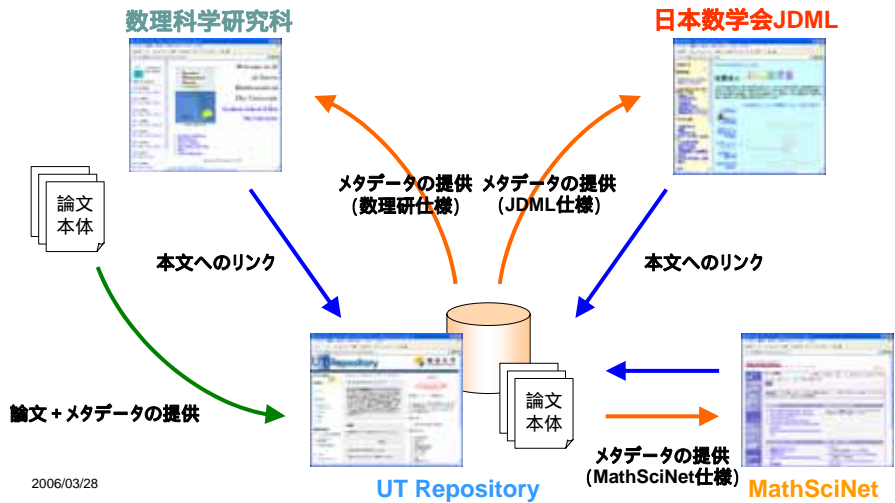
## Phase2: 数理科学研究科とUT Repositoryとの連携



## Phase3: 日本数学会との連携



## Phase4: MathSciNetとの連携



## 検討中あるいは今後の課題



- メタデータの要素とデータ構造について
- 著作権について
- メタデータのみ論文の扱いについて
- 過去の英文紀要の電子化について



## メタデータの要素とデータ構造について



- 数理科学研究科からUT Repositoryに提供されるメタデータの要素、そのデータ構造について、詳細を検討中。
- また、UT Repositoryから数理科学研究科に提供するメタデータ、その提供方法についても、現在検討中。
  - OAI-PMHを利用したxml形式のデータの提供
    - [sample](#)
  - DSpaceの一括抽出機能を利用したxmlデータの提供

2006/03/28

2006年度日本数学会出版委員会ワークショップ

17

## 著作権について



- 現在数理科学研究科Webサイトで公開中の論文は、執筆者から許諾を得たもの。
- 現在も継続して手続きを行っており、許諾が得られ次第、順次公開の予定。
- 今後発行予定のもの (Vol.13(2006)以降) は事前に許諾を得ている。

2006/03/28

2006年度日本数学会出版委員会ワークショップ

18

## メタデータのための論文の扱いについて



- 利用許諾手続き中、あるいは出版社との契約により本文を公開できない期間における、論文のメタデータのための公開をどうするか。
- 今後の公開を予定していることを前提として、これらのメタデータも同様に登録する方向で検討している。

## 過去の英文紀要の電子化について



- 現在、数理科学研究科の前身にあたる理学部数学教室時に発行していた英文誌の電子化、および公開のための許諾作業を行っている。
- 古いものになると執筆者から許諾を得ることが難しいため、何らかの判断が必要であるとのことである。

ご清聴ありがとうございました

